

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第5回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部において、
①若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2016年6月23日（木） 第一部：16:50～18:00、第二部：18:00～19:00
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室（第一部）、310会議室（第二部）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・教養学部理科三類学生（いずれも男女不問）
※ 他部局、他機関からの参加も可

5. プログラム：

司会 北中幸子・細谷紀子

【第一部】

16:50 開会挨拶

（宮川清 副医学系研究科長・副医学部長、秋下雅弘 医学部附属病院 副院長）

16:55 講演

共働きの医師夫婦が育んだワークライフシナジー

～脳外科医を夫にもった女性医師の奮闘～

女子栄養大学栄養学部教授 藤巻 わかえ 先生

～小児科医を妻にもった男性医師の成長～

埼玉医科大学脳神経外科教授 藤巻 高光 先生

17:35 質疑応答・全体討論

17:55 中締め挨拶

（佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）

【第二部】

18:00～19:00 自由歓談・情報交換会

6. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）

第5回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会

幹事：北中幸子・細谷紀子

委員：飯塚陽子・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・本田郁子・増井友里・安岡潤子

M4：高岡由梨子・水次弘子 M3：秋山果徳・大西泰地 M2：勝又顕正・米田あゆ・頼友梨恵

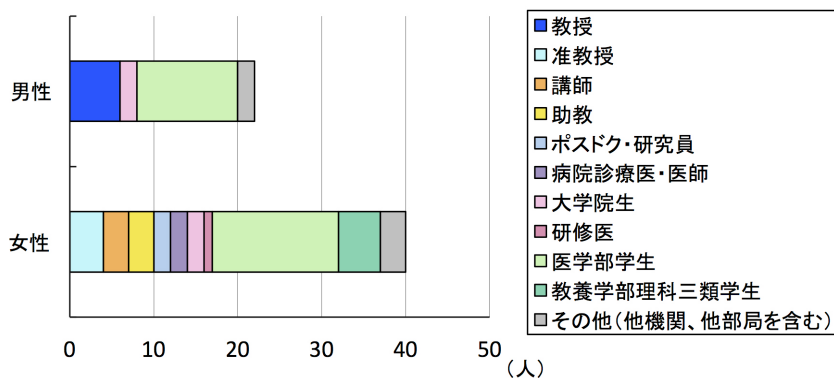
M1：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり C2：岩田千尋・関彩花

II. 開催報告

1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	6	0
准教授	0	4
講師	0	3
助教	0	3
ポスドク・研究員	0	2
病院診療医・医師	0	2
大学院生	2	2
研修医	0	1
医学部学生	12	15
教養学部理科三類学生	0	5
その他(他機関、他部局を含む)	2	3
計	22	40

(人)



2. 当日配布資料

資料1 プログラム (ポスター)

資料2 アンケート用紙

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されている。5回目を迎える今回は、学外から医師夫婦を講師としてお招きし、これまでの歩みと医師の就労環境とキャリアをめぐる今後の課題について、夫婦それぞれの視点からお話いただくことにより、男女共同参画への理解をより深めることを目指した。

開会にあたり、宮川清副医学系研究科長・副医学部長と秋下雅弘医学部附属病院副院長よりご挨拶をいただいた。宮川副研究科長・副学部長は、35年前に講師の藤巻先生ご夫妻と初めて出会った時の印象を語り、本交流会で、その後のご夫妻の「ワークライフシナジー」についてのお話を拝聴して議論が出来ることに対する期待を述べられた。また、個人レベルの意識の協調が組織や社会の変化につながることを指摘され、若い参加者には、本交流会で学んだことを将来のキャリア形成に活かしていただきたい旨の話があった。秋下副院長は、老年病科医の立場から、男女の支え合いの意識を早期からビルドアップしていくことの重要性を述べられた。また、東大病院では、院内保育園、病児保育、育児支援室、病院診療医など、両立支援のための取り組みに力を入れており、「東大病院の目指す方向 2015~2016年版」の中でも、男女共同参画を含めた働きやすい勤務環境の仕組みを作ることが掲げられている旨の紹介があった。

続いて、藤巻わかえ先生（女子栄養大学栄養学部教授）と藤巻高光先生（埼玉医科大学脳神経外科教授）より、「共働き医師夫婦が育んだワークライフシナジー ～脳外科医を夫にもった女性医師の奮闘～ ～小児科医を妻にもった男性医師の成長～」というタイトルで、夫婦による掛け合い形式の講演が行われた。

講演は、まず、『泣き笑い人生』のサブタイトルで、ご夫妻のそれぞれのキャリアとライフイベントを辿るところから始まった。藤巻先生ご夫妻は、医学部を同年にご卒業され、夫の高光先生は脳神経外科に、妻のわかえ先生は小児科に入局され、卒後3年目に結婚された。ご夫妻は、

結婚にあたり、二人の足し算でなく掛け算となるような家庭を、そして、二人とも自立している家庭を作ることを目指された。その後、3人の子どもに恵まれ、妻のわかえ先生は、一時はフルタイム勤務を断念されたものの、限られた時間で臨床と研究を継続して、学位を取得された。当初は、家事や育児を「手伝って(Help)」いた夫の高光先生であったが、アメリカ留学中に転機が訪れる。育児をしながら生き生きと研究活動を行う妻のわかえ先生の姿を見ているうちに、女性に対する意識に少しずつ変化が生まれ、家事や育児を「主体的に行う(Do)」ようになったのである。帰国後は、高光先生は脳神経外科医として、わかえ先生は感染免疫の研究医として、外国人ベビーシッターの手も借りながら、二人三脚で育児との両立に奮闘されるようになる。夫の高光先生は、時には同僚に白い目で見られながらも夜のカンファランスを欠席して早く帰宅した。また、朝のお弁当作りも担うようになった。

お子様たちもだいぶ成長した頃、わかえ先生は女子栄養大学栄養学部教授に、高光先生は埼玉医科大学脳神経外科教授に就任された。それまでのご経験から、医師が働く環境とキャリアの形成・維持・向上に関する問題意識がますます高まっていたご夫妻は、女性医師支援の活動にも熱心に取り組まれた。高光先生は、20年前から「働く女性医師の夫の会」を立ち上げるなど、ユニークな活動をされている。近年、ご自身が主宰する脳神経外科において、女性医師の産休・育休期間にスタッフが「3人体制」になる危機を経験されたが、他の病院の先生方の助けも借りて、乗り切ることが出来たという。2年前から日本医師会の男女共同参画委員会委員を務められ、本年には脳神経外科医を対象とした女性医師についての意識調査の論文も発表されている(T. Fujimaki et al, Neurol Med Chir 2016)。わかえ先生も、長年にわたる日本医師会の勤務医委員会の活動や「わかめ会」の主宰を通じて、医学生・若手医師のサポート活動を精力的に行っておられる。女性医師が増えている中、新専門医制度など女性医師に影響を及ぼす問題が次々と生じること、しかし未だに教授や学会理事などのモノ言える立場に女性が少ないこと、ガラスの天井は確かに存在すること、これらの解決には男女ともに意識改革が必要であり、日医ニュースに「女性医師のアンガージュマンを求める」(<http://www.med.or.jp/nichiionline/article/004206.html>)を寄稿されたことなど、現在の問題点や活動についてお話いただいた。最後に、ご夫妻は、保育園などの制度や枠組みを整備するだけでなく、男女がお互いを認め合い、それぞれの良さを活かすこと、また、いつも社会に目を向けていることが大切であることを強調された。

質疑応答では、長時間の仕事や夜のカンファランスへの出席が出来ないような時期における本人の仕事のスキルアップや上司や同僚のサポートのあり方、お子様たちからのご夫妻に対する評価、家事や育児と仕事の両立のコツ、ご夫妻が若い世代に求めることなど、学生、若手医師、教員から、多数の質問が挙がった。

第一部の締めくくりにあたり、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、ご講演いただいた藤巻わかえ先生、藤巻高光先生ご夫妻への謝辞が述べられた。また、来年以降も良い交流会を開催したいので、参加者の方々からのフィードバックをお願いしたい旨の話があった。

第二部の自由歓談では、藤巻先生ご夫妻の他、医学系研究科・医学部の教員や若手医師、学生が多数参加し、会場のあちこちで歓談の花が咲いた。和気あいあいとした雰囲気の中、進路(臨床、研究、他)のこと、医学における研究の重要性、ご夫妻のなれそめ、家事と育児の効率化など、話題がつきることはなく、1時間の交流時間は、あっという間に過ぎ去った。

III. 参加者アンケートの集計結果

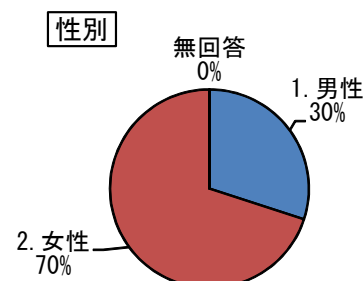
回収数：40 件（回収率 64.5%）

回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

< 基本情報 >

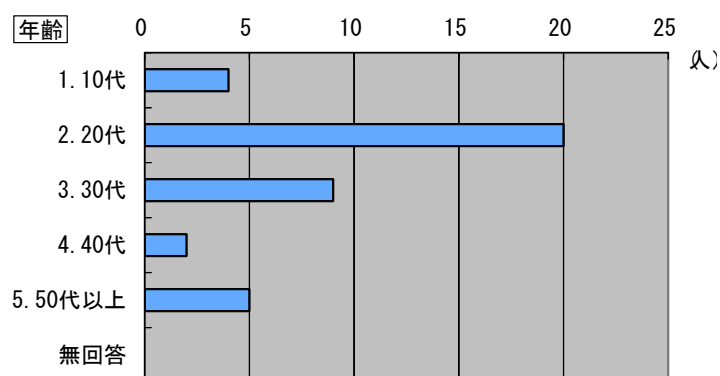
A 1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	12	30
2. 女性	28	70
無回答	0	0
計	40	



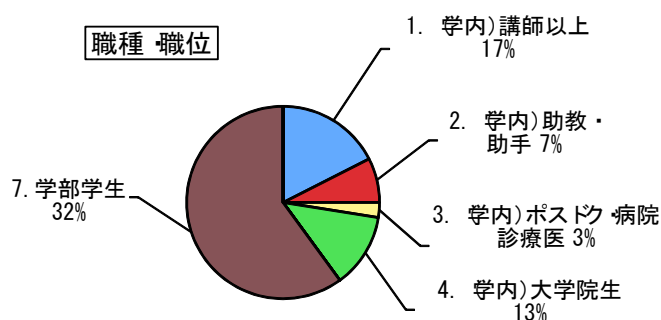
A 2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	4	10.0
2. 20代	20	50.0
3. 30代	9	22.5
4. 40代	2	5.0
5. 50代以上	5	12.5
無回答	0	0.0
計	40	



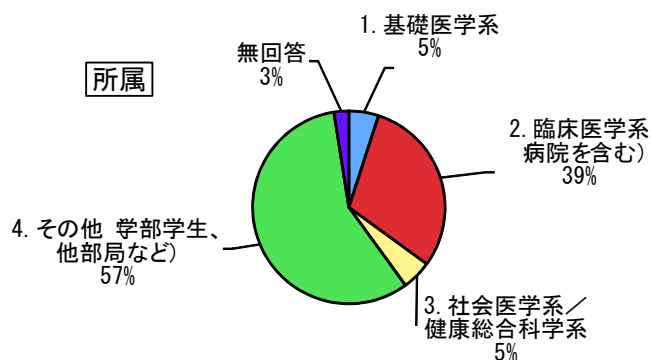
A 3) 職種・職位（特任・客員を含む）

職種・職位	n	(%)
1. 学内)講師以上	7	17.5
2. 学内)助教・助手	3	7.5
3. 学内)ポストウ・病院診療医	1	2.5
4. 学内)大学院生	5	12.5
5. 学内)後期研修医	0	0.0
6. 学内)前期研修医	0	0.0
7. 学内)学部学生	24	60.0
8. その他 他機関、他部局など	0	0.0
無回答	0	0.0
計	40	

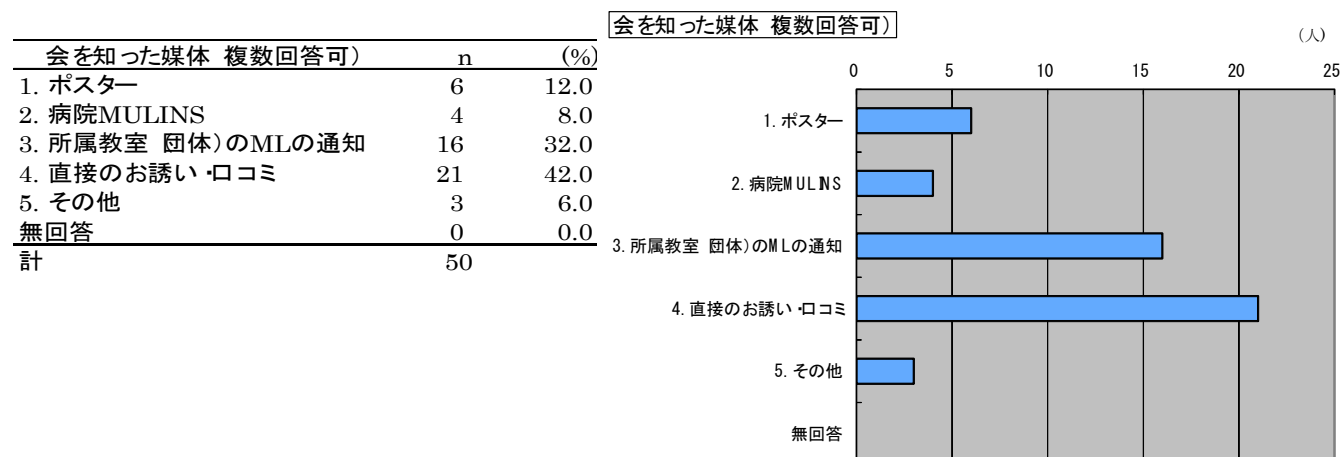


A 4) 所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	2	5.0
2. 臨床医学系 病院を含む)	12	30.0
3. 社会医学系／健康総合科学系	2	5.0
4. その他 学部学生、他部局など)	23	57.5
無回答	1	2.5
計	40	



A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)

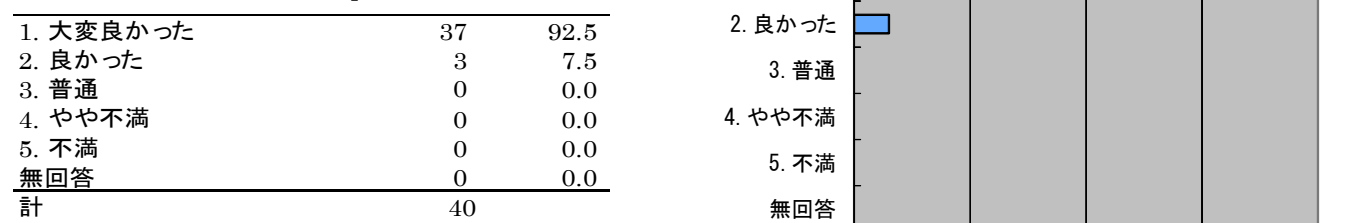


< 今回の企画の感想について >

B1) 講演 藤巻わかえ先生・藤巻高光先生

「共働きの医師夫婦が育んだ

ワークライフシナジー」について



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想 (自由回答)

講演について：

- ・ とてもおもしろい講演でした。わかえ先生の不屈の研究魂にも圧倒されましたし、高光先生は、臨床の指導者の立場として大変理解のある先生であるところが理想的です。やはり、若手はどうしても上司の顔色を見てしまうものですので、上司がそういう考え方であると、若手の行動範囲は格段に広がると思いました。
- ・ めもと漫才のように大変楽しく聞かせていただきました。女医としての生活をライフイベントとの両立という観点から具体的にイメージするほぼ初めての機会となり、大変貴重なものでした。ありがとうございました。
- ・ 仲の良い医師夫婦で、かけあいの息もピッタリでした。
- ・ 藤巻先生ご夫妻の2人それぞれのキャリアやライフイベントの時間的経過が具体的で分かりやすく良かったです。おふたりの会話のような発表はすてきで、引き込まれるように聞かせて頂きました。
- ・ 具体的でわかりやすかった上、聞いていて面白い内容だった。留学の話やベビーシッターの話のような実地的な話を聞いたのが良かった。
- ・ ご自身の体験、その時感じたこと、考えたこと、今から振り返ってどう考えたか等、具体的なお話をお伺いでき、大変示唆的でした。

- ・ 将来は話の通じやすい医師と結婚して仕事も子育ても両立したいと思っていたため、具体的な工夫や苦労話も聞けて参考になりました。藤巻ご夫婦ほど上手くいく自信はありませんが（苦笑）やりたいことを追いつける生き方もあると知って安心しました。
- ・ 経時的にお話されて具体的で参考になる内容でした。
- ・ 今回は前回とは打って変わって身近なお話が多く、すぐに実践できそうなところが多かったです。ありがとうございました。
- ・ 昨年とは違い、ご夫婦での講演だったので、家庭生活に対してお二人それぞれの意見をうかがえたのが新鮮でした。
- ・ 夫婦の話で2つの視点からの話が聞けて面白かったです。
- ・ 男性医師、女性医師、両者の視点、立場が同時に理解できた。
- ・ ご夫婦のお話を一度に伺うことができてとても勉強になりました。
- ・ 女性医師としてのキャリアの1つのロールモデルを得られて良かったです。家事の分担、子育て、いろんな苦労の場面でお互いどう考えていたのかといったことが知ることができて、とても面白く、参考になりました。
- ・ 赤裸々な事情まで詳しくお話し下さりありがとうございます。
- ・ 藤巻先生ご夫妻のワークライフを迫体験させて頂くことが出来、大変貴重な時間でした。私自身医師同士の結婚がうまくいくのか不安に思っていたのですが、お互いの仕事や立場のことを思いやり、目標を共有していれば素晴らしい家庭を築くこともできるんだと感じておりました。
- ・ 女性だけでなく、男性の協力も必要だということを良く理解できた。
- ・ お二人がご協力されている姿が印象的でした。
- ・ 非常に興味深かったです。ただし、まだまだ個人の能力に頼る部分が大きく、もっと世の中の人が気楽に家庭とキャリアアップの両立ができる社会になると良いと思います。
- ・ とても興味深く拝聴させていただきました。私も夫が医師なので（子供2才）ライフワークバランスにはとても興味があります。
- ・ 夫婦でなさる講演は印象的でしたが、会にふさわしいものだったと思います。私も1才の娘がいて、家事と育児と仕事に奮闘中です。
- ・ とても面白い中にも、為になるお話を伺えて有意義でした。ありがとうございます。
- ・ 大変興味深いお話、ありがとうございました。今年度は、ご夫妻の話をじっくり伺うことができ、より将来への現実的な考察ができたように思います。
- ・ 将来について考えるよい機会となりました。
- ・ もっと教授会の先生方に聞いてほしいです。

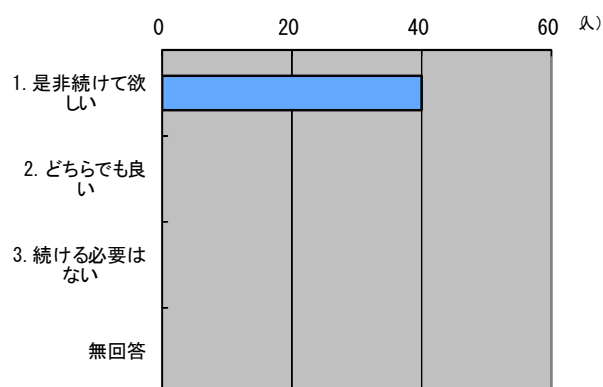
企画について：

- ・ 初めて参加し、素晴らしいお話や議論をうかがえて大変有意義でした。学生の多くの参加、質問があり、心強く思いました。自分についても反省させられました。
- ・ 自由歓談の時間がちゃんと設けられたのが良かった。
- ・ 第二部も学生から教授職まで幅広い層の参加があり、とても盛り上がっていて、楽しめました。
- ・ とても貴重な場だと思った。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	40	100.0
2. どちらでも良い	0	0.0
3. 続ける必要はない	0	0.0
無回答	0	0.0
計	40	

今後もこのような企画を



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会の継続のご要望：

- ・ 今回の講演も大変意義深いものでした。こういった会は、継続していくことがとても大事だと思います。今後も定期的に行なっていくことで、この会に参加しない、まだ興味のない人たちへのアピールにもなると思います。

今後の交流会の内容、テーマに関するご要望：

- ・ 男女共同参画、と銘打っているのに、もっと男子学生が気軽に来られるようなトピックもあるといいと思いました。
- ・ 高光先生のような男性の演者を今後もお招きして、男女で、共同参画について理解を深めていけると良いと思います。
- ・ 男性の高光先生のように理解ある方にもっと話を聞きたいです。

今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見・ご要望：

- ・ 病院診療医の報酬は1,650円/時であり、時短希望のDrのニーズに応えていないと思います（医師の時給として低すぎます）。このことに関してより問題提起と改善へのはたらきかけをして頂きたいです。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思っております。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会